

佐久市国史跡龍岡城跡保存整備委員会
第1回委員会 会議録

1. 会議概要

- (1) 開催日時：令和元年8月26日（月） 13：30～17：00
- (2) 開催場所：あいとぴあ臼田 多目的室3・4号室、龍岡城跡、五稜郭であいの館
- (3) 出席者
委員7名、オブザーバー1名（長野県教育委員会文化財・生涯学習課文化財係）
コンサルタント3名（㈱KRC）、事務局5名（佐久市教育委員会）

- (4) 欠席者
委員3名、オブザーバー1名（文化庁文化資源活用課 文化財調査官）

(5) 次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 会長、副会長あいさつ
- 6 協議事項
 - (1) 整備委員会及び基本計画について
 - (2) 基本計画の概要等について
－史跡 龍岡城跡へ移動－
 - (3) 現地視察
－五稜郭であいの館へ移動－
 - (4) 意見交換
- 7 閉 会

2. 協議事項の質疑応答

※佐久市国史跡龍岡城跡保存整備委員会設置要綱第5条の規定に基づき、委員の互選により、佐久市国史跡龍岡城跡保存整備委員会の会長に高埜委員、副会長に鷺見委員を選出。以降、協議事項は会長が進行。

(1) **整備委員会及び基本計画について**

会 長：大給恒頭彰委員会の説明があったが、もう少し詳しくしていただきたい。具体的に委員会がどこで立ち上がり、どういう計画か、その中では岡崎市の方と何か連携がとられているのか。今の時点でわかる範囲で説明を加えていただきたい。

事務局：大給恒翁の委員会の関係として、大給恒翁は「佐久の先人」での一人としては紹介しているが、龍岡城跡の近く施設において功績を紹介できるような場所を今後顕彰という形で進めていきたいと考え立ち上げたものである。龍岡城跡の近くでということになるので、これから現地を見ていただくなかで、であいの館等の施設があるが、それらの施設を活用して功績を伝えられるような展示等の紹介ができないか検討するためのものである。明日、第1回目の委員会を開催する予定である。委員メンバーは主に「佐久の先人」の関係で携わった方、「臼田町誌」の編纂に携わった方、地元の方がメインとなり、今後の進み具合によってはこちらの委員会と提携していくこともあるかと思っている。具体的に岡崎市のほうとの連携までは至っていない。

会 長：明日発足し、この地域が主体的になっていくことと、将来は館での展示を考えていることを伺った。ほかに質問・意見等はないか。

委 員：五稜郭にあった山門等が市内各所に散らばっている現状であるが、小学校移転に伴って史跡を整備するときに、そういうものとの関わり合いや現状、昔の姿に戻すのかどうか先行きが見えたら教えていただきたい。

会 長：その内容については、後ほど具体的に議論していくということによろしいか。

(2) 基本計画の概要等について

会 長：まずは資料の理解を助けるような質問があればお願いしたい。

委 員：資料2の方向性、方針B-2の3点目に視点場としての五稜郭展望台の整備とあるが、これは函館の五稜郭タワーのようなものの新設を考えているのか。

事務局：展望台として参考資料1の3の地図にあるように五稜郭北側の山に展望台もあるが、タワーのようなものを活用できていければと思うが、すぐにどうこうできる問題ではないという認識は持っているので今後議論していただければと思う。

会 長：先ほど、委員から展望台に歩いて登る方を見かけるというお話があったが、歩きだとのくらいかかるのか。

委 員：上りが30分、下りが20分くらい。

会 長：展望台には施設があるのか。

委 員：もとは田口城跡という戦国時代の山城の本丸跡で平らになっている場所がある。眺められるように木の柵などができている。車でも行けるが砂利道で退避場所が2、3箇所あるだけである。そこからだと龍岡城跡の全貌が見え、八ヶ岳や蓼科山まで山並みもきれいに覚えて、大変眺望がよろしい。皆さんから上から見たいという要望が大変強い。

会 長：道路の状況としては、整備の必要がある。

委 員：道路の整備もそうだが、道路から展望台までの道も山の古道なので、市にもお願いして来月に保存会でロープなどを張り安全に通れるように整備したい。せっかく登ったが、展望台まで行けなかったという方や見えなかったという方もいた。タワーができるに越したことはないが、費用対効果を考えると、50万人とか100万人の方が来られるならばタワーもよいとは思いますが、現状では大変だと思う。

会 長：タワーは費用対効果問題もあるが、景観を損ねるといった観点からも文化庁ともしっかり相

談をしなければならない。函館の五稜郭タワーは規制等が厳しくない時代に建設されたと思うので、今は可能なのかどうかを含めて議論していかなければならない。そして展望台は戦国時代の山城跡であるが、佐久市等の史跡の対象となっているのか。

委員：なっていない。

会長：現地を見ていないが、石垣や空堀跡はないのか。

委員：石垣はところどころに残っているが空堀はわからない。

会長：今回の整備計画は五稜郭が中心だが、周辺部分をどう取り込んだ整備をしていくのかも課題になっていると理解している。既に歴史的な研究はなされていると思うが、山城に登ると五稜郭が見えるという形でタイアップすることもできるのではないかと。山城やかつての城下町を含めた地域全体の歴史的な資産を活かすことも念頭に置く必要があるのではないかと。

委員：城郭調査ということで田口城に何度か登ったことがあり、龍岡城が見える展望台にも行ったことがある。城郭としての平地、掘り切りというものは残っている。確か佐久市の埋蔵文化財保存地に一部になっていると思うが、大きく2つの問題がある。展望台に行くために登った方が、登るために斜面を崩してしまった事例があり、文化財の保護という点がある。もう1つは、田口城山頂付近は岩が露出して孕んでいるので、石が崩落するのが目に見えている。実際に歩いていても石が落ちているものもあり、安全面の問題もある。田口城の現状と状況によっては文化財の整備等を視野に入れていく必要があると思う。

委員：資料にあるように石垣は大変痛んできていて、特に東側は石垣の中にケヤキの木などが生えたりして大変痛んできているので、ぜひ修復をお願いしたい。

また、泥が非常に溜まってきていて、かつてより水面が1mくらい高くなっていると思う。掘りの浚渫も課題として取り上げていただきたい。水が溜まるようになっていて、水が抜けず水が濁っていてもいる。保存会で水の管理も行っているが、一定の量に保っておくことが難しい。大雨が降ると穴門の石橋から水が流れ出るくらい増えてしまうし、頻繁に水の管理をしないといけない。水が一定の水位まできたら流れ出ていくようにつくっていただきたい。

お堀にはコウホネという植物が大手橋から西側にあるが、尾瀬にも生息している大変貴重な植物のようで人気もあるようだが、果たして掘りの中にあってもよいものなのか。見に来た方からはお堀の中にあるべきではないという意見もある。

会長：事務局から回答があれば、その都度お願いしたい。浚渫については市の方で定期的に今まで行ってきたことではなくて、状況を見て行うのか。

委員：浚渫は行っていないと思う。

事務局：浚渫は定期的には行ってない。水面が今までよりも1m増えてしまった、堀の中に立木があってもいいのか、また水草が本来あるべきものなのかということ。函館の方は桜もきれいに咲き、観光地になっているということだが、稜堡に迫って桜が大きくなり石垣が傷むということがあるので、今日いただいた意見や質問は検討して、次回回答させていただきたい。

委員：図面の右側、堀の外に旧道跡が残っている。大手門から右に100mくらい行き北に向かっ

て今の表通り、蕃松院の前の道を通って枡形に行っていた道跡が一部残っていて、タカハシさんの土地である。私が田口小学校に勤めていた10数年前、ご健在だった持ち主のタカハシさんは必要ならば譲ってもよいと当時の臼田町教育委員会に申し出たが、反応がなかった。今も残っていると思うので、外郭の一部として教育委員会で確かめていただきたい。

委 員：資料2の基本方針について、今回の整備基本計画の対象ではAとBということだが、管理計画書の85ページに基本方針A～Eが示されているが、CからEは今後どのように取り扱われるのか。長期的に改めてこれだけ取り出して検討されるのか。Cは周辺整備、Dは保存会との連携、Eは周辺地域の活性化資源となるので、今回の策定に十分関連性は出てくると思われる。

事務局：今回は史跡内のものをメインに考えていて、CからEに関してはその他の課題というなかで検討していきたい。

会 長：管理計画書の85ページにあるCからEの観点を除去するわけではなく、今回の整備委員会のなかでも必要な観点は取り入れていく意味でその他とされている。先ほどの大給恒さんの顕彰は方針Eにあたるだろう。岡崎市と提携して相互に交流するという展開があればEで考えていく。

会 長：今回のきっかけになっているのは田口小学校が令和4年で閉校するということがある。史跡として相応しいかどうかとして、歴史的な保存対象でない小学校、招魂社の問題がある。新小学校ができた後には田口小学校は解体されるという理解でよいかと思う。招魂社は長野縣護國神社に合祀する考えがあるのかないか、現状のわかる方に説明をお願いしたい。城内にある招魂社は年中行事としてどういった儀式等が行われているのか。

委 員：招魂社は城のあったころ三社神社ということで3人の藩主を祀っていた。そこに戊辰戦争で亡くなった4人を祀り、以後招魂社となり、戦争で亡くなられた旧田口村の方と公務で亡くなられた役場の方が合祀されている。明治2年4月14日に戊辰戦争の戦死者を祀った例大祭を行い、それ以降現在まで4月14日には毎年行っている。今のお祭りは大体が日曜日になってしまっているが、招魂社だけは今でも休平日にかかわらず4月14日に行っている。総代の方々が年2回、付近の草刈りを行っている。私としては、招魂社は龍岡城と一体となるものだと考えているので残していただきたいと思う。

会 長：現地の貴重な意見をいただいた。この計画書の中でも、小学校と招魂社の撤去問題が念頭に置かれているように感じた。当面委員会としては招魂社については対象にしないということでもよろしいか。事務局はどう考えているのか。

事務局：委員から現状を説明していただいたが、現在の招魂社の総代に確認を取っていないので、確認をして委員会にお知らせする。

委 員：岡崎市との交流は地域ではずっとやってきていて、市は姉妹都市になっている。田口小学校は毎年交流していると思う。統合小学校も交流を続けるかどうか。

事務局：先の話は把握していないので確認を取っておく。

委 員：P T Aが毎年、泊まりで行ったり来たりしていた。

委員：小学生が夏休みに今年も行ったようである。

委員：史跡の復元の範囲ということで五稜郭の中と柵形があるが、柵形も毎月保存会で草刈りをして手入れをしている。大手門からの道を出た駐車場になっているところに柵形があった。柵形の復元まで話が及んでもよいのか。

委員：外郭の塀があった。わかればぜひ取り上げていただきたい。

委員：委員の発言にあった建物についてはどうなのか。

委員：関係する建物が市内各所に散っている。それを元に戻すことはできるのか。それぞれ皆さん権利を持ってお使いだから簡単ではないだろう。戻す可能性があるのだったら、修復なり再現を。史跡に指定されていると南側の未完成の崩れた石垣に手を付けるにはいかないと聞いている。セスナに乗って上からみたことがあるが、五稜郭の境目がハッキリしない部分が雨川に沿った所にある。輪郭がはっきりしないことはどう扱っていくのか。

委員：南から西の部分はもともと堀がなかったので、堀をつくることは考えられない。南は川に面していて、河川敷にニセアカシアが増えてしまっているので河川の整備と合わせて整備していただきたいと思う。堀の周りを一回りしたいという方がたくさんいる。外側は秋に草を刈って整備をしたが、今は生い茂って回れない。中の武者走りや土手の上を回っていただいている。堀のない部分も一回りできるように整備していただきたい。建物について大手門は復元していただきたい。当時大工をしたお宅に図面等が残っており、であいの館にも見取り図が残っている。東門は野沢の薬師寺にあるが、移築できるかどうか興味がある。

会長：移築可能な場合もあるかもしれないが、所有権も問題もあるので難しいだろう。この整備委員会でどこまで積極的に取り組めるのか、事務局はどういう見通しを立てているのか。

事務局：整備計画に2年かけ、その後基本計画、工事の実施計画を立て実際に堀の浚渫や石垣、建物の復元等の整備となる。整備計画は2年あるが、そのなかで先ほどもあったような龍岡城跡の外に出ているがまだある建物等は委員会の意見としていただき、所有者に確認することで買い戻せるのか、寄付していただけるのか、設計書を基に県や文化庁の意見を聞きながら復元を行えるのか詰めていきたい。

会長：この後、現地視察を予定しており、その後にも意見交換の場がある。オブザーバーからご助言をいただきたい。

オブザーバー：整備計画なので、基本的には史跡の範囲内をどう整備していくのかになる。方針CからEについては整備計画に盛り込む必要はない。もっと広い視野で臼田地域をどう活性化していくのかという計画の中に絡めていくほうがよい。

資料2の方針B-2、現状・課題の③に案内看板とあるが、案内看板という言い方が非常に曖昧である。史跡の中にも案内看板が必要となる。見学者の動線計画をこれからつくっていくと思うが、それと混乱しているように思う。標柱・説明看板とあるのでおそらく史跡内だと思うので、史跡の案内看板ならば方針B-1に入れるべきである。

その他の課題についても少し整理されたほうがよい。①から③と現状・課題があがっているが、この順に並べ替えるような工夫をしていただきたい。

計画項目の④に調査計画があるが、何を調査しているか。方針Aに石垣とか堀が出ているのが、どのような傷みで、どのような修復をしなければいけないのかというための調査も

あるし、外に出て行った建物を戻そうとするときに、その場所に本来の遺構が残っているかどうかの調査も必要である。何らかの目的がないと調査ができないので、目的を明らかにするために現状と課題をうまく絡める必要がある。

先ほど委員から旧道跡が残っているという話があったが、参考資料の1に龍岡城の石切り場跡のようなものについては、付けたりの指定がかなう可能性があると思うので、その辺も調査をしていく必要がある。

まだまだ手を付けなければいけないものはたくさんあると思うが、十分な議論を進めていただければと思う。

(3) 意見交換

<現地視察後>

会 長：外周の道自体はつながっているのか。草が邪魔して通れないだけなのか。

委 員：道はない。途中土手や河川敷を通るようになっている。

委 員：道はないが、用水路があるのでその土手が通路として使える。

会 長：観光的には行き止まりは残念であり、達成感がない。1周くらいはしたいという熱心な方も多いだろう。

委 員：ニセアカシアがはびこってしまう。私が小学校に勤めていた頃は私が全部切っていた。今の学校の先生はやらない。保存会の皆さんもやらないからはびこっている。3年もほっておくとすぐの生えてきてしまうので、絶えずやっておかないといけない。

委 員：今年の冬には全部整備をして木を切ったりして、一応回れるようにはしたが、その後草や木が生えてきて手が回らない。

委 員：校庭に埋蔵文化財の調査は入るのか。そこで何か出てくると状態は変わってくる。

会 長：かつて校舎が校庭の真ん中にあったのを今の場所に移しているが、その時建物を撤去したあとの均しはブルドーザーで整地したようだが、その時は調査をやっていないのでその下に何か出てくるかもしれない。

委 員：その校舎を建てる時に色々な建物を移築しなかったか。

委 員：かつての建物は取り払われて、お台所はあった。

委 員：もう10年早ければ岩村田駅の周りに火薬庫や倉庫や年貢米を入れた米蔵が5、6棟あった。駅ができた時にここから移した。10年程前にこちらに連絡があったが、教育委員会はその取り上げず、移築してくれなかった。取り壊されて残念だった。これからはそのようなことがないようにお願いしたい。

委 員：そこに長屋もあった。

委 員：史跡に直接関係ないが私は観光協会の役員もしていて、臼田の観光資源はどうしても龍岡城と新海三社神社と蕃松院で、お客さんと呼ぶものになっている。観光のためにしたいことと、史跡のために残すものは相容れない部分が出てくる。おそらく史跡を優先にやると思うが、何かお客さんと呼べる形のを何かしたいとか、欲しいとした場合には、史跡になってからでは難しいのか。

事務局：難しい。先ほどオブザーバーからも言われたが今回の整備はあくまでも国の補助を受けて

史跡の中を整備していくものであるので、それ以外は誘客も含めて周辺の、例えば駐車場整備などは同時進行で市の予算でできるかと思う。

委員：史跡は史跡としてきちりと行うべきだし、それに付随して観光資源として使えるものはおいに使うってお客さんを呼べるようにしたい。色々な形として、ここで食事ができないかという話もあり、ここにきて食べる物がない、食事に行く場所がないとか耳にすることもある。また、お土産も少ない。先ほど誰かがキーホルダーなども欲しいと話していたが、それくらいであれば史跡とは直接関係はないが、観光面からすれば必要なかと思う。

委員：あとは樹木の関係である。桜の木を含めてどうするか。

会長：そこまでは今日は議論ができていなかった。樹木の関係で何かあるか。

オブザーバー：桜はかなり弱ってきていると思う。

会長：植えてから50年は経っていないと思うが、近づいてはいると思う。

オブザーバー：そろそろそれくらいになる。

委員：ソメイヨシノは長くて100年と言われている。

オブザーバー：この後そうしていくか。後継の桜をまた植えていくのか、やめるのか、場所を変えるのか。そういった方向で検討していくことになるかと思う。

委員：今ある土手の上というわけにはいかないと思うが、いずれにしてもしかるべきところに桜の木を植えて欲しいというのが我々の希望である。この城山から撮った写真を見て来訪者は城山に登る。

会長：桜が満開だと見事である。土手の上が無理であるとすれば、その内側ということになるか。

委員：お堀の上に桜がかかっているというのが何ともいえないという部分はあるが。

オブザーバー：水面に移っている桜とか。

会長：しかし石垣に悪さをするのでどうにかしないといけない。

オブザーバー：事務局からこの整備計画の期間は10年間であると説明を受けているが、10年後の目指す姿、到達点をどこに置くのかというのを事務局側から提示してもらえると、それに向かって検討をしやすと思う。しかし、この委員会の中でその姿を決めていくということになると6回程度の委員会ではできないと思う。その辺りを事務局としてはどう考えているのか。また、この10年に区切った理由、根拠は何か。

事務局：10年というのは短期的なものと考えている。中・長期的になると建物の復元等が入ってきてかなりの時間を要すると考えている。10年の中で必要最低限な整備を行い、それ以上は中・長期でと考えている。その中で10年という期間を見込んで皆さんにお示ししたものである。また、10年後の形については突然のことで考えていなかったもので、次回の委員会までに10年後のあるべき姿が説明できるよう検討していきたいと思う。

会長：本日が第1回目の委員会で、先ほどの会議室での議論の中でも、オブザーバーからのご指摘にもあったように、事務局が委員会の位置付けや役割はどういうところなのか考えが定まっていない部分があった。限られた6回の委員会のなかで全体像の中の、長期展望の中のどの部分を担う委員会なのかという辺を次回の委員会までに整理して示していただくとわかりやすくなるかと思う。

会 長：現在の樹木の植生などがどういった意図で植えてこられた等の情報はあるのか。桜が土手の上に植えられた経緯など。

委 員：桜は卒業生の記念樹として植えられたものなどがある。ポプラなどは私たちが小学生のころからあった。

会 長：校舎を撤去した後でどういった形で、建物の復元は簡単ではないとした場合にどういった形で中の整備をしていくのか。その際に植栽の問題が議論されることになろうかと思う。

委 員：10年先の絵と、我々がこの五稜郭をどういった史跡にして、最終的にこんな形にしたいという思いがまずあり、そこに向かって10年かけてここまでこうといったような道筋がある程度明確になると取り組みやすいと思う。10年先が最終目的ではない。

委 員：史跡公園のような形になるかと思う。私たちが勤めていたときに貴重だと思ったのが、ここには載っていないが、普段はほとんど目に掛かれないような非常に珍しい小鳥が来ている。通過点として通るのかわからないが、ブッポウソウなんかも鳴いている。ところが佐久市誌にはブッポウソウはいないとなっている。ブッポウソウの他にもアオバトなどの小鳥が来ている。このような鳥が来るのは貴重な樹木なのだと思うっており、その辺も含めて公園として検討していただければと思う。

会 長：保存計画の91ページに保存活用の全体図というのが載っており、保存管理計画の下にある整備委員会というものがこの委員会である。その下に小委員会のようなものが4つ並んでいて、一番右側に資料館整備委員会というものがあり、資料館構想があるということである。この辺で市として具体的に動きや構想はあるのか。

事務局：今のところはない。資料館としてはあいの館を併用したり、史跡の中には新しく建物は建てられないと思うので、資料館整備については今回の史跡整備計画のなかでは私たちの意向では触れないと思う。

委 員：今の説明に対して、先ほど委員からもあったように保管施設はないかというもので、ここには日本一の資料がある。150年以上の陣屋日記があるのは日本でここだけだと思う。そういうものもあるので、資料館はそれだけでもお客が呼べるくらい値打ちのある資料である。

会 長：陣屋日記は何年間分あるのか。

委 員：700冊くらいある。

会 長：そんなにあるのか。

委 員：百数十年の日記が、抜けはどうしてもあるが、全部書いてある。日本にここしかない陣屋日記が揃っている。これだけで十分な値打ちのある資料であるとは私は思っている。私たちが古文書を調べて勉強している。

会 長：これも将来的な話になるので、資料館整備委員会ができてそういった構想をすることになる。要するに、ここまで五稜郭の話に限定しすぎて、委員の発言に引きつけて言えば、地域全体の陣屋日記を紐解いて分析していけば住民が出てくると思う。実際に住んでいた住民たちとの関係がわかる。言い方を変えれば、この地域で生まれ育った人たちのアイデン

ティティの確認ができ、歴史像をつくることができる。そういったものが求められると私は思う。五稜郭はもちろん中核としてあるが、中核だけでなく居住者を含めた地域全体像を取り組んでいく必要があると思う。

そういった理由からこの資料館整備委員会に着目した。大給恒顕彰委員会が明日立ち上がるという話は伺ったが、それは大切だがここで生きてきた、住んできた人たちにはつながらない話である。この地域にとってもっとわかる歴史研究とその成果が上手く反映できるとよいかと思う。

ワザバー：今は田口小学校が取り壊しという話だが、例えば校舎の一部を残して資料館に改装するという手もあると思う。そういったことも含めてこの委員会で検討ができればよいと思う。史跡内に新たに建物をつくることはできないが、今あるものを半分は取り壊して、半分は残して活用していくというやり方も手法としてはありかと思う。若しくはこのあいの館をバージョンアップしていくかのどちらかだと思う。それらも含めて検討していただければと思う。

会長：素晴らしいご意見をいただいた。何となく全面撤去というイメージでいたので、確かにそういった使い道もあるかと思う。学校は資料を保存するのに非常によい場所である。また、田口小学校のアーカイブスをどうするかもある。田口小学校に通った人の総数は大変な数になると思う。そこに通った人たちの証拠、エビデンスをしっかりと残す。あそこに行けば自分が通っていた何十年前の学級日誌が残っているといったような場所をつくることもあり得るかと思う。今は学校アーカイブスが各地で取り組まれている。つまり、廃校や統合が多くなっている。とくに地域の生まれ育った学校がなくなってしまうと、特に女性の場合はお嫁に行ってしまうと、自分の故郷で自分が生きた証拠がどこに何が残っているかといったときに、学校アーカイブスが非常に意味を持つことが多く、着目している自治体やアーカイブスがある。そういったことも一つとして考えられる。廃校の前に、田口小学校の資料を保存することも併せて決めていかななくてはいけない。

委員：新統合小学校の中に、それぞれの4小学校の歴史を残す場所をつくらうという話が出ている。

委員：保存会もこの学校を出た、お嫁に来た方もこの学校に子供を出したということで五稜郭を愛して、大給恒さんを尊敬して一生懸命になってボランティアをしている。